

授 業 概 要

授業科目名	人間の尊厳と自立	開講時期	1 年 前 期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	廣井 英徳	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 福祉を学ぶ上で基礎となる科目の為、授業で配布するプリントを通して、人間の尊厳・介護における尊厳、尊厳を保持した関わり、自立支援、権利擁護等についての考え方を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「人と関わる」専門職と言う事を考えながら、「人間の尊厳と自立」「介護における尊厳の保持」「自立支援」を演習等を交えて習得する。また、社会福祉の制度や人権の歴史等についてもふれ、権利擁護についても考える。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として、制度が変わっても変わることのない「やさしさ・思いやり」の大切さと「尊厳の保持・自立支援・権利擁護」を理解する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1・2 人間の尊厳 3・4 人間の尊厳と利用者主体 5・6 生活支援における人間の尊厳と自立の意義（前回授業の確認小テスト） 7・8 人権の歴史から見た社会福祉の歴史・人権擁護 9 人権の歴史から見た社会福祉の歴史（ハンセン病等について） 10 人権尊重と権利擁護 11 介護を必要とする人々の自立と自立支援 12・13 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立 14 尊厳を無視した介護 15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士国試ナビ:中央法規出版 プリント配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験、レポート、授業態度等の総合評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	ソーシャルワーク	開講時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	時間数(単位)	30時間 1単位
担当者名 実務経験(有・無)	おばせ みつひと 小長谷 恭史	授業の回数	15回
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>ソーシャルワークの意義・価値・倫理・スキルなどを学び、ソーシャルワークとは何かを追求する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護福祉士が業務として利用者に介護(ケアワーク)を提供するためには、その前提として必ず何らかのソーシャルワークが展開されており、それに介護福祉士が深く関与している。ソーシャルワークの基礎理論を習得しながら学生のソーシャルワークへの関心を高め、実践のための技術獲得に向けモチベーションを向上させる。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>卒業～就職に向けて、「ソーシャルワークにも強い」介護福祉士を養成していきたい。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1 ソーシャルワークとは何か(基本概念と定義)①</p> <p>2 ソーシャルワークとは何か(基本概念と定義)②</p> <p>3・4 ソーシャルワークの価値と倫理</p> <p>5・6 ソーシャルワークの原理・原則(バイステックほか)</p> <p>7 ソーシャルワークの史的発展</p> <p>8～14 様々なソーシャルワークと演習</p> <p>15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>「ソーシャルワークジェネラリスト ソーシャルワークの援助技術」 得津慎子 :ふくろう出版 ※配布資料として対応</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期試験の評価及び日常の提出物の評価、普段の授業の取り組み態度</p>	

授 業 概 要

授業科目名	人間関係とコミュニケーション	開講時期	1 年 後 期
授業形態	演 習	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	廣井 英徳	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉の専門職として利用者(クライアント)の理解の仕方を学ぶ。 また、一人ひとりが自分自身の長所・短所に気付き、専門職として利用者(クライアント)とコミュニケーションを図る基礎的な理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 専門職として、対人援助におけるコミュニケーションについて学び、適切な援助関係を形成することができるように基礎知識を習得する。 また、「自己覚知」や「受容」「共感」「傾聴」を学生同士が演習で体験する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 コミュニケーションの基礎を身に付け、専門職として適切な援助関係が形成できるようになる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1・2 人間と人間関係 3・4 コミュニケーションの基礎 5・6 対人関係におけるコミュニケーション 7・8 人間関係の形成(自己覚知等) 9・10 コミュニケーション技法(生活場面面接) 11・12 対人援助関係とコミュニケーション 13・14 組織におけるコミュニケーション 16 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士国試ナビ:中央法規出版 プリント配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験、レポート、授業態度等の総合評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	社会の理解	開講時期	2 年 通 年																																
授業形態	講 義	時間数(単 位)	60 時間 2 単位																																
担当者名 実務経験(有・無)	廣井 英徳	授業の回数	30 回																																
<p>【授業の目的・ねらい】 生活と福祉、介護保険制度、障害者総合支援法、そして我が国の社会保障制度の役割や意義、各制度の仕組み、高齢者、障害者や児童がどのように制度と関わっているのか等を体系的に学び、介護福祉士として働き始めてからも役立つ知識を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生活、地域、社会を理解したうえで、社会保障制度や介護保険制度、障害者総合支援法等の考え方、役割、関連制度、最新の改正点や新たな制度等を解説する。また、学生が制度を身近に感じ理解できるよう演習も交え授業を進める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として活躍する分野は幅広くなってきている為、介護保険制度だけでなく、障害者に関する制度、医療保険、年金保険、生活保護制度についても理解し、介護福祉と制度を関連付けて考えられる介護福祉士の養成を目指す。</p>																																			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 生活と社会福祉Ⅰ(生活の構造)</td> <td style="width: 50%;">16 障害者に関する法制度</td> </tr> <tr> <td>2 生活と社会福祉Ⅱ(地域社会との関係)</td> <td>17 障害者総合支援法の仕組みⅠ</td> </tr> <tr> <td>3 生活と社会福祉Ⅲ(ライフスタイルと生活支援)</td> <td>18 障害者総合支援法の仕組みⅡ</td> </tr> <tr> <td>4 社会保障の役割と意義、その目的</td> <td>19 障害者総合支援法の仕組みⅢ</td> </tr> <tr> <td>5 日本の社会保障制度の発達・現在の体系</td> <td>20 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>6 社会保障の財源・給付と負担の関係</td> <td>21 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>持続可能な社会保障制度への道</td> <td>22 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>7 各種社会保険の概要(年金保険)</td> <td>23 人々の権利を擁護する諸制度</td> </tr> <tr> <td>8 各種社会保険の概要(医療保険)</td> <td>24 保健医療に関わる法と施策</td> </tr> <tr> <td>9 労働者関連の社会保険、各種社会扶助の概要</td> <td>25 生活を支える諸制度(生活保護制度)</td> </tr> <tr> <td>10 介護保険制度の理解Ⅰ</td> <td>26 生活を支える諸制度(生活困窮者自立支援制度)</td> </tr> <tr> <td>11 介護保険制度の理解Ⅱ</td> <td>27 生活を支える制度</td> </tr> <tr> <td>12 介護保険制度の理解Ⅲ</td> <td>28 高齢者・障害者の住生活を支援する制度</td> </tr> <tr> <td>13 介護サービスに関する理解Ⅰ</td> <td>29 各種制度の振り返り</td> </tr> <tr> <td>14 介護サービスに関する理解Ⅱ</td> <td>30 まとめ</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1 生活と社会福祉Ⅰ(生活の構造)	16 障害者に関する法制度	2 生活と社会福祉Ⅱ(地域社会との関係)	17 障害者総合支援法の仕組みⅠ	3 生活と社会福祉Ⅲ(ライフスタイルと生活支援)	18 障害者総合支援法の仕組みⅡ	4 社会保障の役割と意義、その目的	19 障害者総合支援法の仕組みⅢ	5 日本の社会保障制度の発達・現在の体系	20 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅰ	6 社会保障の財源・給付と負担の関係	21 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅱ	持続可能な社会保障制度への道	22 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅲ	7 各種社会保険の概要(年金保険)	23 人々の権利を擁護する諸制度	8 各種社会保険の概要(医療保険)	24 保健医療に関わる法と施策	9 労働者関連の社会保険、各種社会扶助の概要	25 生活を支える諸制度(生活保護制度)	10 介護保険制度の理解Ⅰ	26 生活を支える諸制度(生活困窮者自立支援制度)	11 介護保険制度の理解Ⅱ	27 生活を支える制度	12 介護保険制度の理解Ⅲ	28 高齢者・障害者の住生活を支援する制度	13 介護サービスに関する理解Ⅰ	29 各種制度の振り返り	14 介護サービスに関する理解Ⅱ	30 まとめ	15 まとめ	
1 生活と社会福祉Ⅰ(生活の構造)	16 障害者に関する法制度																																		
2 生活と社会福祉Ⅱ(地域社会との関係)	17 障害者総合支援法の仕組みⅠ																																		
3 生活と社会福祉Ⅲ(ライフスタイルと生活支援)	18 障害者総合支援法の仕組みⅡ																																		
4 社会保障の役割と意義、その目的	19 障害者総合支援法の仕組みⅢ																																		
5 日本の社会保障制度の発達・現在の体系	20 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅰ																																		
6 社会保障の財源・給付と負担の関係	21 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅱ																																		
持続可能な社会保障制度への道	22 障害者総合支援法に関わる組織と役割Ⅲ																																		
7 各種社会保険の概要(年金保険)	23 人々の権利を擁護する諸制度																																		
8 各種社会保険の概要(医療保険)	24 保健医療に関わる法と施策																																		
9 労働者関連の社会保険、各種社会扶助の概要	25 生活を支える諸制度(生活保護制度)																																		
10 介護保険制度の理解Ⅰ	26 生活を支える諸制度(生活困窮者自立支援制度)																																		
11 介護保険制度の理解Ⅱ	27 生活を支える制度																																		
12 介護保険制度の理解Ⅲ	28 高齢者・障害者の住生活を支援する制度																																		
13 介護サービスに関する理解Ⅰ	29 各種制度の振り返り																																		
14 介護サービスに関する理解Ⅱ	30 まとめ																																		
15 まとめ																																			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士国試ナビ :中央法規出版 プリント配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 定期試験、レポート、授業態度等の総合評価</p>																																	

授 業 概 要

授業科目名	情報処理	開講時期	2年 通 年
授業形態	演 習	時間数(単 位)	60時間 2単位
担当者名 実務経験(有・無)	坂口 弘一	授業の回数	30回
<p>【授業の目的・ねらい】 情報処理の土台と数学的論理的思考の学習とする。 パソコンの基本操作、Word Excelを使用して文章や表・グラフ等の作成ができる。又、データベースについて理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護関連分野においても統計学的考え方、技術が重要となっている。コンピューター処理技術なども含み講義内容を組み立てていく。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として、数学と人間の関わり、統計などを用いた論理的思考を養う。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1・2 Microsoft Windows8の基礎知識 3・4 Word の基礎 5・6 Word の基礎 7・8 Word の応用 9・10 Word の応用 11・12 Excel の基礎 13・14 Excel の基礎 15 まとめ 16・17 Excel の基礎 18・19 Excel の応用 20・21 Excel の応用 22・23 Excel の応用 24・25 Power point の基礎 26・27 Power point の応用 28・29 Power point の応用 30 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 Office 2013:実教出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 課題をパソコンで作成。それを評価の対象とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	生活文化	開講時期	1 年 後 期
授業形態	演 習	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	伊藤 智子	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 高齢者、障害者が尊厳のある自己実現を達成することができるよう、身体状況や個別的ニーズにあった食生活支援を実現するための基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 調理支援や調理活動の支援が、自立支援を促し QOL の向上を目指す機会となること。 また、疾病予防や改善を考える機会となる支援であることを理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 食習慣、嗜好、価値観、食文化や生活環境を理解し、尊重しながら自己実現に向けた食生活支援が行えるようになる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1・2 調理支援のための基礎知識(授業) 食生活・栄養の理解、食品衛生、調理の基本、高齢者の理解など</p> <p>3・4 基本の調理(実習)</p> <p>5・6 介護職の調理(実習)</p> <p>7・8 疾病のある場合の調理(実習)</p> <p>9・10 行事食、おやつ(実習)</p> <p>11・12 献立表の作成(グループワーク) 食生活支援を行うにおいて想定される課題を抽出し、その課題に合った献立を作成する。</p> <p>13・14 自主献立の調理(実習)</p> <p>15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I : 中央法規出版 生活支援のための調理実習 第3版 田崎裕美 中川恵子 編著: 建帛社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 授業態度 筆記試験 実技点 ノート点 課題レポート グループワーク 出席状況 等</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護の基本 I	開講時期	1 年 前期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	玉置 哲也・尾本 洋史 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 教科書を主としてすすめていくが、折に実際の介護現場や要介護者を取り巻く家族の実例を出しながら、現場に即した理解を促していく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉の理念や、専門職としての基本が理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>3 介護の基本 I 第1章 介護福祉とは 1・2 第1節 介護の成り立ち 3・4 第2節 介護の概念の変遷 5・6 第3節 介護福祉の基本</p> <p>4 介護の基本 II 第1章 介護福祉を必要とする人の理解 7・8 第1節 私たちの生活の理解 9・10 第2節 介護福祉士を必要とする人たちの暮らし 11・12 第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 13・14 第4節 生活のしづらさの理解とその支援</p> <p>15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 4 介護の基本 II 第2版 :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・提出物・定期試験・小テスト・授業態度 など</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護の基本Ⅱ	開講時期	1 年 後 期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	玉置 哲也・尾本 洋史 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 教科書を主としてすすめていくが、折に実際の介護現場や要介護者を取り巻く家族の実例を出しながら、現場に即した理解を促していく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉の理念や、専門職としての基本が理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>4 介護の基本Ⅱ 第 5 章 介護従事者の安全 1・2 第 1 節 健康管理の意義と目的 3・4 第 2 節 こころの健康管理 5・6 第 3 節 身体の健康管理 7・8 第 4 節 労働環境の整備</p> <p>3 介護の基本Ⅰ 第 2 章 介護福祉士の役割と機能 9・10 第 1 節 介護福祉士の活動の場と役割 11・12 第 2 節 社会福祉士及び介護福祉士法 第 3 章 介護福祉士の倫理 13 第 1 節 介護福祉士の倫理 14 第 2 節 日本介護福祉士会の倫理綱領</p> <p>15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 4 介護の基本Ⅱ 第 2 版</p> <p style="text-align: right;">:中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・提出物・定期試験・小テスト・授業態度など</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護の基本Ⅳ	開講時期	2 年 前 期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	片山 智文・上野 一路 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉士の役割や機能が理解でき、利用者それぞれの自立に向けた支援について理解できる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 教科書を主としてすすめていくが、折に実際の介護現場や要介護者を取り巻く家族の実例を出しながら、現場に即した理解を促していく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護の専門職として支援することの意義が理解でき、支援を必要としている方々のおかれている状況や支援方法の多様性、介護予防について理解することができる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>3 介護の基本 I 第 2 章 介護福祉士の役割と機能 1・2 第 4 節 介護福祉士を支える団体</p> <p>第 4 章 自立に向けた介護福祉士のあり方 3・4・5 第 1 節 自立支援の考え方 6・7・8 第 2 節 ICF の考え方 9・10・11 第 3 節 自立支援とリハビリテーション 12・13・14 第 4 節 自立支援と介護予防</p> <p>15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I :中央法規出版 介護福祉士の教科書:早稲田経営出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・提出物・定期試験・小テスト・授業態度など</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護の基本V	開講時期	2年 後期
授業形態	講義・演習	時間数(単位)	30時間 1単位
担当者名 実務経験(有・無)	片山 智文・上野 一路 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉士の役割や機能が理解でき、利用者それぞれの自立に向けた支援について理解できる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 教科書を主としてすすめていくが、折に実際の介護現場や要介護者を取り巻く家族の実例を出しながら、現場に即した理解を促していく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として地域連携の重要性や具体的なサービス、協働する多職種への理解と、チームケアの重要性について理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>4 介護の基本II 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 1 第1節 利用者の生活を支えるしくみ 2 第2節 生活を支えるフォーマルサービス(社会的サービス)とは 3 第3節 生活支えるインフォーマルサービス(私的サービス)とは 4 第4節 地域連携</p> <p>第4章 協働する多職種と機能と役割 5・6 第1節 多職種連携・協働の必要性 7・8 第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 9・10・11・12 第3節 保健・医療・福祉職の役割と機能 13・14 第4節 多職種連携・協働の実際</p> <p>15 まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本II 第2版 :中央法規出版 介護福祉士の教科書:早稲田経営出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・提出物・定期試験・小テスト・授業態度など</p>	

授 業 概 要

授業科目名	コミュニケーション技術 I	開講時期	1年 通 年
授業形態	講 義 ・ 演 習	時間数(単 位)	60 時間 2 単位
担当者名 実務経験(有・無)	お ば せ みつひと 小長谷 恭史	授業の回数	30回
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>利用者・家族との関係性やチームにおける連携の構築のためのコミュニケーションの意義や技法を 学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を獲得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護におけるコミュニケーションの意味等を学び、技術の習得を目指すために、多様な演習を取り 入れた実践的で多彩な授業となるよう工夫していくものとする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>多くの学生が苦手と感じるであろう「介護のプロとして通用するコミュニケーション」の習得を目指し、 基礎理論の理解及び演習を通じた「使えるコミュニケーション技術」を獲得することを目指す。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1～15 ①コミュニケーションとは～介護におけるコミュニケーションの基本</p> <p style="padding-left: 40px;">②コミュニケーションの基本技術(コミュニケーション態度に関する基本技術、言語・ 非言語・準言語コミュニケーションの基本、目的別のコミュニケーション技術等)</p> <p>16～30 ③対象者の特性に応じたコミュニケーション(コミュニケーション障害への対応の基本、さ まざまなコミュニケーション障害のある人への支援等)</p> <p style="padding-left: 40px;">④家族とのコミュニケーション(家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整、家族関係 と介護ストレスへの対応)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 5 『コミュニケーション技術』 介護福祉士養成講座編集委員会編 :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期試験の評価及び日常の提出物の評価、普段の授業 態度</p>	

授 業 概 要

授業科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	開講時期	1 年 前 期
授業形態	講 義 ・ 演 習	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	堀江 浩子	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護におけるコミュニケーションの基本を学び、介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 聴覚障害者との正しいコミュニケーション方法を習得する。 聴覚障害に関連することの理解。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストに従い、自己紹介、簡単な日常会話程度の手話を覚える。 介護におけるコミュニケーションの基本、多岐にわたるコミュニケーション理解と能力を身につけさせる講義内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として援助関係、援助的コミュニケーション能力を身につける。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 <u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害者とのコミュニケーションについて/手話を用いたコミュニケーション方法(名前を紹介) 2 手話を用いたコミュニケーション方法(家族を紹介) 3 手話を用いたコミュニケーション方法(数を使って話す) 4 手話を用いたコミュニケーション方法(趣味について話す) 5 手話を用いたコミュニケーション方法(仕事について話す) 6 手話を用いたコミュニケーション方法(住所を紹介) 7 手話を用いたコミュニケーション方法(時の表現-1日) 8 手話を用いたコミュニケーション方法(時の表現-1ヶ月) 9 手話を用いたコミュニケーション方法(時の表現-1年) 10 手話を用いたコミュニケーション方法(疑問詞で会話) 11 手話を用いたコミュニケーション方法(疑問詞で会話) 12 いろいろな会話(介護での会話) 13 耳の聞こえのしくみ、制度等 14 手話で話そう(簡単スピーチ) 15 まとめ 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術:中央法規出版 手話奉仕員養成テキスト 「手話を学ぼう手話で話そう」:(C)社会福祉法人全国手話研修センター</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験・出席状況・授業態度など</p>	

授 業 概 要

授業科目名	生活支援技術 I	開講時期	1 年 通 年
授業形態	講 義 ・ 演 習	時間数(単 位)	60 時間 2 単位
担当者名 実務経験(有)無)	野田 明希	授業の回数	30 回

【授業の目的・ねらい】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する。

【授業全体の内容の概要】

介護技術の各分野における基本的な知識について、教科書を用いて机上学習で教授し、演習にて基本的な技術の教授を行う。机上学習(基本的知識)と演習(基本的技術)の関連性を持たせる。
また、基本知識を持つことの大切さや日常生活に必要な援助方法を理解させる。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

基本的な知識・技術を習得しそれぞれの原理原則を理解することができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(紹介)、メモについて 2. 身だしなみ、介護技術について 3. ボディメカニクスについて、自立に向けた移動の介護 4. 休息、睡眠の介護、褥瘡について 5. 声かけについて、自立に向けた食事の介助 6. 自立に向けた身じたくの介護 7. 自立に向けた排泄の介護 8. 自立に向けた入浴、清潔保持の介護 9. ボディメカニクス(演習) 10. シーツ交換(演習) 11. 自立に向けた移動の介護(演習) 12. 自立に向けた移動の介護(演習) 13. 振り返り<小テスト> 14. 解説、説明 15. まとめ | <ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 自立に向けた排泄介護(演習) 18. 19. 自立に向けた入浴、清潔保持の介護(演習) 20. 21. 自立に向けた移動の介護(演習)杖・車いす 22. 23. 自立に向けた介護(演習) 24. 事例①(演習) 25. 介護技術振り返り(演習) 26. 事例②(演習) 27. 介護技術振り返り(演習) 28. 振り返り<小テスト> 29. 解説、説明 30. まとめ |
|---|--|

【使用テキスト・参考文献】

- 最新 介護福祉士養成講座
6 生活支援技術 I :中央法規出版
7 生活支援技術 II :中央法規出版

【単位認定の方法及び基準】

- 出席状況・定期試験
授業態度

授 業 概 要

授業科目名	生活支援技術Ⅱ	開講時期	2 年 通 年		
授業形態	講 義 ・ 演 習	時間数(単 位)	60 時間 2 単位		
担当者名 実務経験(有)無	野田 明希・和田 恵理 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	30 回		
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護技術の各分野における基本的な知識を教科書を用いて机上学習で教授し、演習にて基本的な技術の教授を行う。机上学習(基本的知識)と演習(基本的技術)の関連性を持たせる。 また、基本知識を持つことの大切さや日常生活に必要な援助方法を理解させる。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 基本的な知識・技術を習得しそれぞれの原理原則を理解することができる。</p>					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><u>休息・睡眠の介護</u></p> <p>1・2 自立した休息・睡眠とは</p> <p>3・4 自立に向けた休息・睡眠の介護</p> <p>5・6 自立に向けた休息・睡眠の介護(演習)</p> <p>7 休息・睡眠の介護における多職種の役割と協働 <u>人生の最終段階における介護</u></p> <p>8・9 人生の最終段階の意義と介護の役割</p> <p>10・11・12・13 人生の最終段階における介護技術</p> <p>14 人生の最終段階の介護における多職種の 役割と協働</p> <p>15 まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><u>自立に向けた移動の介護</u></p> <p>16・17・18 自立に向けた移動・移乗の介護(演習)</p> <p><u>自立に向けた身じたくの介護</u></p> <p>19・20・21 自立に向けた身じたくの介護(演習)</p> <p><u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u></p> <p>22・23・24 入浴・清潔保持における介護技術(演習)</p> <p><u>自立に向けた排泄の介護</u></p> <p>25・26 自立に向けた排泄の介護(演習)</p> <p><u>休息・睡眠の介護</u></p> <p>27・28・29 自立に向けた休息・睡眠の介護(演習)</p> <p>30 まとめ</p> </td> </tr> </table>				<p><u>休息・睡眠の介護</u></p> <p>1・2 自立した休息・睡眠とは</p> <p>3・4 自立に向けた休息・睡眠の介護</p> <p>5・6 自立に向けた休息・睡眠の介護(演習)</p> <p>7 休息・睡眠の介護における多職種の役割と協働 <u>人生の最終段階における介護</u></p> <p>8・9 人生の最終段階の意義と介護の役割</p> <p>10・11・12・13 人生の最終段階における介護技術</p> <p>14 人生の最終段階の介護における多職種の 役割と協働</p> <p>15 まとめ</p>	<p><u>自立に向けた移動の介護</u></p> <p>16・17・18 自立に向けた移動・移乗の介護(演習)</p> <p><u>自立に向けた身じたくの介護</u></p> <p>19・20・21 自立に向けた身じたくの介護(演習)</p> <p><u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u></p> <p>22・23・24 入浴・清潔保持における介護技術(演習)</p> <p><u>自立に向けた排泄の介護</u></p> <p>25・26 自立に向けた排泄の介護(演習)</p> <p><u>休息・睡眠の介護</u></p> <p>27・28・29 自立に向けた休息・睡眠の介護(演習)</p> <p>30 まとめ</p>
<p><u>休息・睡眠の介護</u></p> <p>1・2 自立した休息・睡眠とは</p> <p>3・4 自立に向けた休息・睡眠の介護</p> <p>5・6 自立に向けた休息・睡眠の介護(演習)</p> <p>7 休息・睡眠の介護における多職種の役割と協働 <u>人生の最終段階における介護</u></p> <p>8・9 人生の最終段階の意義と介護の役割</p> <p>10・11・12・13 人生の最終段階における介護技術</p> <p>14 人生の最終段階の介護における多職種の 役割と協働</p> <p>15 まとめ</p>	<p><u>自立に向けた移動の介護</u></p> <p>16・17・18 自立に向けた移動・移乗の介護(演習)</p> <p><u>自立に向けた身じたくの介護</u></p> <p>19・20・21 自立に向けた身じたくの介護(演習)</p> <p><u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u></p> <p>22・23・24 入浴・清潔保持における介護技術(演習)</p> <p><u>自立に向けた排泄の介護</u></p> <p>25・26 自立に向けた排泄の介護(演習)</p> <p><u>休息・睡眠の介護</u></p> <p>27・28・29 自立に向けた休息・睡眠の介護(演習)</p> <p>30 まとめ</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ :中央法規出版 7 生活支援技術Ⅱ :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・定期試験 授業態度</p>			

授 業 概 要

授業科目名	生活支援技術Ⅲ	開講時期	1 年 通 年		
授業形態	講 義・演 習	時間数(単 位)	60 時間 2 単位		
担当者名 実務経験(有)無)	田川 雄一	授業の回数	30 回		
<p>【授業の目的・ねらい】 障害者の特性や、障害者におかれた条件に応じた介護の知識や技術を習得する。 また、個々人に必要な介護の具体的技術や介助方法を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障害に応じて、それぞれの障害の理解(解剖学・疾患)と生活を支えるための介護技術・支援を学習する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を理解し、生活を支えるために必要な介護技術・支援が行える。 ・ 個別性を重視した対応ができる。 					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><u>障害に応じた自立に向けた移動と排泄の介護</u></p> <p>1 肢体不自由に応じた移動と排泄の介護</p> <p>2 肢体不自由に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>3 視覚障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>4 視覚障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>5 聴覚・言語障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>6 聴覚・言語障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>7 重複障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>8 重複障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>9・10・11 内部障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>12・13・14 内部障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>15 まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><u>障害に応じた自立に向けた食事と身じたくの介護</u></p> <p>16 肢体不自由に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>17 肢体不自由に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>18 視覚障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>19 視覚障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>20 聴覚・言語障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>21 聴覚・言語障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>22 重複障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>23 重複障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>24・25・26 内部障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>27・28・29 内部障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>30 まとめ</p> </td> </tr> </table>				<p><u>障害に応じた自立に向けた移動と排泄の介護</u></p> <p>1 肢体不自由に応じた移動と排泄の介護</p> <p>2 肢体不自由に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>3 視覚障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>4 視覚障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>5 聴覚・言語障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>6 聴覚・言語障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>7 重複障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>8 重複障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>9・10・11 内部障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>12・13・14 内部障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>15 まとめ</p>	<p><u>障害に応じた自立に向けた食事と身じたくの介護</u></p> <p>16 肢体不自由に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>17 肢体不自由に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>18 視覚障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>19 視覚障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>20 聴覚・言語障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>21 聴覚・言語障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>22 重複障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>23 重複障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>24・25・26 内部障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>27・28・29 内部障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>30 まとめ</p>
<p><u>障害に応じた自立に向けた移動と排泄の介護</u></p> <p>1 肢体不自由に応じた移動と排泄の介護</p> <p>2 肢体不自由に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>3 視覚障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>4 視覚障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>5 聴覚・言語障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>6 聴覚・言語障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>7 重複障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>8 重複障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>9・10・11 内部障害に応じた移動と排泄の介護</p> <p>12・13・14 内部障害に応じた移動と排泄の介護(演習)</p> <p>15 まとめ</p>	<p><u>障害に応じた自立に向けた食事と身じたくの介護</u></p> <p>16 肢体不自由に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>17 肢体不自由に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>18 視覚障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>19 視覚障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>20 聴覚・言語障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>21 聴覚・言語障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>22 重複障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>23 重複障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>24・25・26 内部障害に応じた食事と身じたくの介護</p> <p>27・28・29 内部障害に応じた食事と身じたくの介護(演習)</p> <p>30 まとめ</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・定期試験・授業態度など</p>			

授 業 概 要

授業科目名	生活支援技術Ⅳ	開講時期	2 年 通 年		
授業形態	講 義・演 習	時間数(単 位)	60 時間 2 単位		
担当者名 実務経験(有・無)	田川 雄一	授業の回数	30 回		
<p>【授業の目的・ねらい】 障害者の特性や、障害者におかれた条件に応じた介護の知識や技術を習得する。 また、個々人に必要な介護の具体的技術や介助方法を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障害に応じて、それぞれの障害の理解(解剖学・疾患)と生活を支えるための介護技術・支援を学習する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を理解し、生活を支えるために必要な介護技術・支援が行える。 ・ 個別性を重視した対応ができる。 					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>障害に応じた自立に向けた入浴・清潔保持の介護</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 1 肢体不自由に応じた入浴・清潔保持の介護 2 肢体不自由に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 3 視覚障害に応じた入浴・清潔保持の介護 4 視覚障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 5 聴覚・言語障害に応じた入浴・清潔保持の介護 6 聴覚・言語障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 7 重複障害に応じた入浴・清潔保持の介護 8 重複障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 9・10・11 内部障害に応じた入浴・清潔保持の介護 12・13・14 内部障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 15 まとめ </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 16 知的障害に応じた介護 17 知的障害に応じた介護(演習) 18 精神障害に応じた介護 19 精神障害に応じた介護(演習) 20 高次脳機能障害に応じた介護 21 高次脳機能障害に応じた介護(演習) 22 発達障害に応じた介護 23 発達障害に応じた介護(演習) 24 パーキンソン病に応じた介護 25 パーキンソン病に応じた介護(演習) 26 悪性関節リウマチに応じた介護 27 悪性関節リウマチに応じた介護(演習) 28 筋ジストロフィーに応じた介護 29 筋ジストロフィーに応じた介護(演習) 30 まとめ </td> </tr> </table>				1 肢体不自由に応じた入浴・清潔保持の介護 2 肢体不自由に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 3 視覚障害に応じた入浴・清潔保持の介護 4 視覚障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 5 聴覚・言語障害に応じた入浴・清潔保持の介護 6 聴覚・言語障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 7 重複障害に応じた入浴・清潔保持の介護 8 重複障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 9・10・11 内部障害に応じた入浴・清潔保持の介護 12・13・14 内部障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 15 まとめ	16 知的障害に応じた介護 17 知的障害に応じた介護(演習) 18 精神障害に応じた介護 19 精神障害に応じた介護(演習) 20 高次脳機能障害に応じた介護 21 高次脳機能障害に応じた介護(演習) 22 発達障害に応じた介護 23 発達障害に応じた介護(演習) 24 パーキンソン病に応じた介護 25 パーキンソン病に応じた介護(演習) 26 悪性関節リウマチに応じた介護 27 悪性関節リウマチに応じた介護(演習) 28 筋ジストロフィーに応じた介護 29 筋ジストロフィーに応じた介護(演習) 30 まとめ
1 肢体不自由に応じた入浴・清潔保持の介護 2 肢体不自由に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 3 視覚障害に応じた入浴・清潔保持の介護 4 視覚障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 5 聴覚・言語障害に応じた入浴・清潔保持の介護 6 聴覚・言語障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 7 重複障害に応じた入浴・清潔保持の介護 8 重複障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 9・10・11 内部障害に応じた入浴・清潔保持の介護 12・13・14 内部障害に応じた入浴・清潔保持の介護(演習) 15 まとめ	16 知的障害に応じた介護 17 知的障害に応じた介護(演習) 18 精神障害に応じた介護 19 精神障害に応じた介護(演習) 20 高次脳機能障害に応じた介護 21 高次脳機能障害に応じた介護(演習) 22 発達障害に応じた介護 23 発達障害に応じた介護(演習) 24 パーキンソン病に応じた介護 25 パーキンソン病に応じた介護(演習) 26 悪性関節リウマチに応じた介護 27 悪性関節リウマチに応じた介護(演習) 28 筋ジストロフィーに応じた介護 29 筋ジストロフィーに応じた介護(演習) 30 まとめ				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・定期試験・授業態度など</p>			

授 業 概 要

授業科目名	生活支援技術V	開講時期	1 年	通 年
授業形態	講 義・演 習	時間数(単 位)	60 時間	2 単位
担当者名 実務経験(有)無)	玉置 哲也・吉田 二弘 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	30 回	

【授業の目的・ねらい】

自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する。介護福祉の専門職として、居住環境の整備や福祉用具を選択・活用するための基礎的な知識や技術を習得する。さらに、生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた生活を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識や技術、また多職種との役割と協働についても習得する。

【授業全体の内容の概要】

本人主体の生活が継続できるよう、居住環境、福祉用具、家事等について講義を中心に教授する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

身体状況や疾患によって、住環境の整備が求められてきている現状を踏まえ、本人の生活環境を理解し、尊重しながら自己実現に向けた生活支援が行える。社会の状況に触れながら対象者にあった対応ができるようになる。また、本人の今までの普通の生活が少しでも継続できるように、援助する者が家庭生活の重要性を理解し支援できるようになる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

生活支援の理解

- 1・2 生活支援の基本的な考え方・生活支援と介護過程
- 3 生活支援とチームアプローチ

福祉用具の意義と活用

- 4 生活支援における福祉用具の重要性
- 5・6 福祉用具の種類・福祉用具を選ぶための
アセスメントの視点

休息・睡眠の介護

- 7・8 休息・睡眠の介護(実技:ベッドメイキング)

自立に向けた食事の介護

- 9・10 食事の意義と目的・自立に向けた食事の介護
- 11・12 自立に向けた食事の介護(実技)
- 13 食事の介護における多職種との連携

自立に向けた移動・身じたくの介護

- 14 移動の介護・身じたくの介護における多職種との
役割と協働
- 15 まとめ

自立に向けた入浴・清潔保持・排泄の介護

- 16 入浴・清潔保持の介護・排泄の介護における
多職種との役割と協働

居住環境の整備

- 17・18 住まいの役割と機能・生活空間
 - 19・20 快適な室内環境
 - 21 安全に暮らすための生活環境
 - 22 高齢者・障害者の住まい
 - 23 居住環境の整備における多職種との連携
- ### 自立に向けた家事の介護
- 24 自立した家事とは
 - 25 自立に向けた家事の介護
 - 26 家事の介護における多職種との連携
 - 27・28・29 生活支援の振り返り
 - 30 まとめ

【使用テキスト・参考文献】

- 最新 介護福祉士養成講座
- 6 生活支援技術Ⅰ:中央法規出版
- 7 生活支援技術Ⅱ:中央法規出版

【単位認定の方法及び基準】

出席状況・提出物・定期試験・小テスト・授業態度など

授 業 概 要

授業科目名	介護過程 I	開講時期	1 年 通 年																												
授業形態	講 義 ・ 演 習	時間数(単 位)	90 時間 3 単位																												
担当者名 実務経験(有・無)	矢口 健一 ・ 柳瀬 志穂 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	45 回																												
<p>【授業目標】</p> <p>介護過程とは、「一人ひとりの利用者が望む『より良い』『その人らしい』生活を実現するために、介護専門職の専門知識・技術を活用して多角的な情報収集を行い、その利用者の生活上の課題（ニーズ）を明らかにして、介護計画を立案、実施、評価する一連の客観的で科学的な思考と実践の過程（プロセス）」とされている。</p> <p>この科目は、「他の科目で得た知識・技術を活用して利用者の生活を支える」という特徴を有することから、極めて重要な科目と位置付けることが出来る。換言すると、介護福祉士の質そのものを左右する要素を持つものとも言えよう。</p> <p>これからの超高齢社会における介護を担い、地域社会の福祉のために活躍する介護福祉士として十分な介護過程の技量を備えることが出来るよう、授業を展開していきたい。介護現場における即戦力養成を目指したいと考える。</p>																															
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p><u>介護過程の意義と基礎的理解</u></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 40%;">1 介護過程とは</td> <td>31・32 介護過程とケアマネジメント</td> </tr> <tr> <td>2・3・4・5・6 介護過程の理解(事例)</td> <td>33・34 <u>介護過程とチームアプローチ</u></td> </tr> <tr> <td>7・8 生活支援の考え方と介護過程の必要性</td> <td>35・36 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>9・10 介護過程の展開</td> <td>37・38・39 事例1で考える利用者の生活と介護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>11 情報収集</td> <td>40・41・42 事例2で考える利用者の生活と介護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>12 ICF の視点</td> <td>43・44 事例3で考える利用者の生活と介護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>13・14・15 情報収集(事例)</td> <td>45 まとめ</td> </tr> <tr> <td>16 アセスメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17・18・19・20 アセスメント(事例)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21 介護計画の立案</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22・23・24・25 介護計画の立案(事例)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>26・27 介護の実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>28・29 評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30 まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1 介護過程とは	31・32 介護過程とケアマネジメント	2・3・4・5・6 介護過程の理解(事例)	33・34 <u>介護過程とチームアプローチ</u>	7・8 生活支援の考え方と介護過程の必要性	35・36 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	9・10 介護過程の展開	37・38・39 事例1で考える利用者の生活と介護過程の展開	11 情報収集	40・41・42 事例2で考える利用者の生活と介護過程の展開	12 ICF の視点	43・44 事例3で考える利用者の生活と介護過程の展開	13・14・15 情報収集(事例)	45 まとめ	16 アセスメント		17・18・19・20 アセスメント(事例)		21 介護計画の立案		22・23・24・25 介護計画の立案(事例)		26・27 介護の実施		28・29 評価		30 まとめ	
1 介護過程とは	31・32 介護過程とケアマネジメント																														
2・3・4・5・6 介護過程の理解(事例)	33・34 <u>介護過程とチームアプローチ</u>																														
7・8 生活支援の考え方と介護過程の必要性	35・36 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開																														
9・10 介護過程の展開	37・38・39 事例1で考える利用者の生活と介護過程の展開																														
11 情報収集	40・41・42 事例2で考える利用者の生活と介護過程の展開																														
12 ICF の視点	43・44 事例3で考える利用者の生活と介護過程の展開																														
13・14・15 情報収集(事例)	45 まとめ																														
16 アセスメント																															
17・18・19・20 アセスメント(事例)																															
21 介護計画の立案																															
22・23・24・25 介護計画の立案(事例)																															
26・27 介護の実施																															
28・29 評価																															
30 まとめ																															
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 9介護過程:中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期試験 日常の提出物の評価 普段の授業に取り組む姿勢</p>																													

授 業 概 要

授業科目名	介護過程Ⅱ	開講時期	2年 通年																		
授業形態	講義・演習	時間数(単位)	60時間 2単位																		
担当者名 実務経験(有・無)	妹脊 康子・和田 恵理 (広川キャンパス) (橋本キャンパス)	授業の回数	30回																		
<p>【授業目標】</p> <p>介護過程とは、「一人ひとりの利用者が望む『より良い』『その人らしい』生活を実現するために、介護専門職の専門知識・技術を活用して多角的な情報収集を行い、その利用者の生活上の課題（ニーズ）を明らかにして、介護計画を立案、実施、評価する一連の客観的で科学的な思考と実践の過程（プロセス）」とされている。</p> <p>この科目は、「他の科目で得た知識・技術を活用して利用者の生活を支える」という特徴を有することから、極めて重要な科目と位置付けることが出来る。換言すると、介護福祉士の質そのものを左右する要素を持つものとも言えよう。</p> <p>これからの超高齢社会における介護を担い、地域社会の福祉のために活躍する介護福祉士として十分な介護過程の技量を備えることが出来るよう、授業を展開していきたい。介護現場における即戦力養成を目指したいと考える。</p>																					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p><u>介護過程の展開の理解</u></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 介護過程とは</td> <td style="width: 50%;">16・17 情報収集(事例1)</td> </tr> <tr> <td>2 介護過程の展開</td> <td>18・19 情報の解釈・関連付け・統合化(事例1)</td> </tr> <tr> <td>3 ICFの視点</td> <td>20 課題の明確化(事例1)</td> </tr> <tr> <td>4・5・6 情報収集(事例)</td> <td>21・22 介護計画の立案(事例1)</td> </tr> <tr> <td>7・8・9 情報の解釈・関連づけ・統合化(事例)</td> <td>23・24 情報収集(事例2)</td> </tr> <tr> <td>10・11 課題の明確化(事例)</td> <td>25・26 情報の解釈・関連付け・統合化(事例2)</td> </tr> <tr> <td>12・13・14 介護計画の立案(事例)</td> <td>27 課題の明確化(事例2)</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td>28・29 介護計画の立案(事例2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>30 まとめ</td> </tr> </table>				1 介護過程とは	16・17 情報収集(事例1)	2 介護過程の展開	18・19 情報の解釈・関連付け・統合化(事例1)	3 ICFの視点	20 課題の明確化(事例1)	4・5・6 情報収集(事例)	21・22 介護計画の立案(事例1)	7・8・9 情報の解釈・関連づけ・統合化(事例)	23・24 情報収集(事例2)	10・11 課題の明確化(事例)	25・26 情報の解釈・関連付け・統合化(事例2)	12・13・14 介護計画の立案(事例)	27 課題の明確化(事例2)	15 まとめ	28・29 介護計画の立案(事例2)		30 まとめ
1 介護過程とは	16・17 情報収集(事例1)																				
2 介護過程の展開	18・19 情報の解釈・関連付け・統合化(事例1)																				
3 ICFの視点	20 課題の明確化(事例1)																				
4・5・6 情報収集(事例)	21・22 介護計画の立案(事例1)																				
7・8・9 情報の解釈・関連づけ・統合化(事例)	23・24 情報収集(事例2)																				
10・11 課題の明確化(事例)	25・26 情報の解釈・関連付け・統合化(事例2)																				
12・13・14 介護計画の立案(事例)	27 課題の明確化(事例2)																				
15 まとめ	28・29 介護計画の立案(事例2)																				
	30 まとめ																				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程: 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>定期試験、日常の提出物の評価、普段の授業に取り組む姿勢</p>																			

講 義 概 要

授業科目名	介護総合演習 I	開講時期	1 年 通 年
授業形態	講 義 ・ 演 習	時間数(単位)	60 時間 2 単位
担当者名 実務経験(有)無	柳瀬 志穂 ・ 妹脊 康子 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	30 回

【授業の目的・ねらい】

実習の効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認やオリエンテーションなどを行う。事例報告会または実習期間中の計画など実習に必要な技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達に応じた総合的な学習とする。

【授業全体の内容の概要】

教科書・実習指導マニュアルを用いて、介護実習の事前・事後指導を行い、介護実習の必要性や今後の課題について理解させる。介護総合演習については、実習と組み合わせて講義を行い、実習日誌など記録物の記載の方法なども理解させる。また、個別の学習到達に応じた総合的な学習にする。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

実習の実施、振り返りを十分に行い基本的な知識・技術・礼儀・マナーを習得する。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

<p>1・2 介護総合演習の位置づけ・目的</p> <p>3 介護実習の意義と目的</p> <p>3 介護実習の種類</p> <p>4 実習前の学びと、実習後の学びのいかし方</p> <p>5 <u>知識と技術の統合①</u> (実習 I の目的と主な実習内容・実習での学び)</p> <p>6 知識と技術の統合①(実習 I -①②の展開について)</p> <p>7・8・9 実習先の特徴、実習先での学び①</p> <p>10 実習先での礼儀・マナーについて</p> <p>11 実習への取り組みについて</p> <p>12 実習の作成書類について①</p> <p>13 実習の作成書類について②</p> <p>14 実習先への礼状作成</p> <p>15 まとめ</p>	<p>16 知識と技術の統合②(実習 I -③の展開について)</p> <p>17・18 実習先の特徴、実習先での学び②</p> <p>19 実習の作成書類について③</p> <p>20 実習先への礼状作成</p> <p>21 知識と技術の統合③(実習 I -④の展開について)</p> <p>22 実習先の特徴、実習先での学び③</p> <p>23 実習の作成書類について④</p> <p>24 知識と技術の統合④(実習 II -①の展開について)</p> <p>25 実習先の特徴、実習先での学び④</p> <p>26・27 実習の作成書類について④</p> <p>28・29 介護技術演習</p> <p>30 まとめ</p>
--	---

【使用テキスト・参考文献】

最新 介護福祉士養成講座
 10 介護総合演習・介護実習:中央法規出版
 6 生活支援技術 I :中央法規出版
 7 生活支援技術 II :中央法規出版
 実習の手引

【単位認定の方法及び基準】

出席状況、定期試験、授業態度

講 義 概 要

授業科目名	介護総合演習Ⅱ	開講時期	2年 前期
授業形態	講 義・演 習	時間数(単 位)	30時間 1単位
担当者名 実務経験(有)無	柳瀬 志穂・妹脊 康子 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15回

【授業の目的・ねらい】

実習の効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認やオリエンテーションなどを行う。事例報告会または実習期間中の計画など実習に必要な技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達に応じた総合的な学習とする。

【授業全体の内容の概要】

教科書・実習指導マニュアルを用いて、介護実習の事前・事後指導を行い、介護実習の必要性や今後の課題について理解させる。介護総合演習については、実習と組み合わせて講義を行い、実習日誌など記録物の記載の方法なども理解させる。また、個別の学習到達に応じた総合的な学習にする。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

実習の実施、振り返りを十分にを行い基本的な知識・技術・礼儀・マナーを習得する。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

- 1 介護技術演習①
- 2 介護技術演習②
- 3 介護技術演習③
- 4 介護技術演習④
- 5 知識と技術の統合(実習Ⅱ-②の展開について)①
- 6 知識と技術の統合(実習Ⅱ-②の展開について)②
- 7 知識と技術の統合(実習Ⅱ-②の展開について)③
- 8 実習先での取り組みについて
- 9 実習の作成書類について
- 10 実習先へのお礼状の作成
- 11 実習の振り返り①
- 12 実習の振り返り②
- 13 実習の振り返り③
- 14 実習の振り返り④
- 15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】

最新 介護福祉士養成講座
 10 介護総合演習・介護実習:中央法規出版
 6 生活支援技術Ⅰ:中央法規出版
 7 生活支援技術Ⅱ:中央法規出版
 実習の手引

【単位認定の方法及び基準】

出席状況、定期試験、授業態度

授 業 概 要

授業科目名	介護総合演習Ⅲ	開講時期	2 年 通 年
授業形態	演 習	時間数(単位)	90 時間 2 単位
担当者名 実務経験(有・無)	中世古博幸・上野一路・ 矢口健一・柳瀬志穂・妹脊康子 廣井英徳・宮本ゆう子	授業の回数	45 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉士資格取得を目指す上で、必要となる国家試験受験に必要な知識等の習得を目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・初回の模擬試験の結果によりグループ分けをし、グループ毎に学習しながら、共に学力を高めていく。 ・介護福祉士国家試験科目毎の対策授業及び模擬試験の実施。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士国家試験の合格水準を満たす知識を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 1～45 国家試験受験対策授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と自立 ・人間関係とコミュニケーション ・社会の理解 ・介護の基本 ・コミュニケーション技術 ・生活支援技術 ・介護過程 ・発達と老化の理解 ・認知症の理解 ・障害の理解 ・こころとからだのしくみ ・医療的ケア ・総合問題 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士の教科書: 早稲田経営出版(TAC 出版) 介護福祉士国家試験模擬問題集 2024: 中央法規出版 国試ナビ 2023: 中央法規出版 全国統一模擬試験(基礎編・実力編): 中央法規出版 全国統一模擬試験(応用編): 福祉教育カレッジ 学力評価試験、模擬試験(過去問)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 取組み姿勢、模試の正答率</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護実習 I - ①	開講時期	1 年 前 期
授業形態	実習	実習期間	令和 5 年 7 月 10 日～7 月 14 日 5 日間
担当者名 実務経験(有)無)	上野一路・矢口健一 柳瀬志穂・妹脊康子・和田恵理	実習時間	40 時間 (1 日 8 時間) 1 単位
<p>【授業の目的・ねらい】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において、<u>地域における生活支援の実践</u>、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、<u>多職種協働の実践</u>や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 配属された施設・事業所で、職員の助言や指導、実習を通して、施設の役割や機能を理解する。また、利用者とのコミュニケーションや観察から状態像を理解すると同時に、介護職員や他職種の役割や業務内容を見学及び実践する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの場が理解できる。 ・介護サービスの利用者と出会うことができる。 ・生活支援の場を知ることができる。 ・コミュニケーションの大切さを知ることができる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを利用している人たちがどのような場所で、どのような暮らしをしているのかを知る。 ・どのような専門職が利用者を支えているのかを知る。 ・リスクマネジメントの視点をもち実習に臨む。 ・常に自分自身の言動について振り返り、自己覚知・自己理解を深める。 ・自分が疑問をもった事柄に対して、自己にて調べ職員に助言・指導を求め疑問を解決する。 ・実習施設の特徴や機能、職員の一般的な役割を理解することができる。 ・学校で学んだ介護技術をふまえて、日常生活の援助を見学することができる。 ・介護実習に臨む体調管理を行える。 ・実習記録が書ける。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習：中央法規 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 介護実習施設評価・学校側評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護実習Ⅰ－②	開講時期	1年 前期
授業形態	実習	実習期間	令和5年7月18日～7月24日 5日間
担当者名 実務経験(有)無)	上野一路・矢口健一 柳瀬志穂・妹脊康子・和田恵理	実習時間	40時間(1日8時間) 1単位
<p>【授業の目的・ねらい】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において、<u>地域における生活支援の実践</u>、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、<u>多職種協働の実践</u>や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 配属された施設・事業所で、職員の助言や指導、実習を通して、施設の役割や機能を理解する。また、利用者とのコミュニケーションや観察から状態像を理解すると同時に、介護職員や他職種の役割や業務内容を見学及び実践する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの場が理解できる。 ・介護サービスの利用者と出会うことができる。 ・生活支援の場を知ることができる。 ・コミュニケーションの大切さを知ることができる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを利用している人たちがどのような場所で、どのような暮らしをしているのかを知る。 ・どのような専門職が利用者を支えているのかを知る。 ・リスクマネジメントの視点を持ち実習に臨む。 ・常に自分自身の言動について振り返り、自己覚知・自己理解を深める。 ・自分が疑問をもった事柄に対して、自己にて調べ職員に助言・指導を求め疑問を解決する。 ・実習施設の特徴や機能、職員の一般的な役割を理解することができる。 ・学校で学んだ介護技術をふまえて、日常生活の援助を見学することができる。 ・介護実習に臨む体調管理を行える。 ・実習記録が書ける。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習：中央法規 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 介護実習施設評価・学校側評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護実習Ⅰ－③	開講時期	1 年 後 期
授業形態	実習	実習期間	令和5年11月6日～11月28日 15日間
担当者名 実務経験(有・無)	上野一路・矢口健一 柳瀬志穂・妹脊康子・和田恵理	実習時間	120時間(1日8時間) 4単位
<p>【授業の目的・ねらい】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において、<u>地域における生活支援の実践</u>、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、<u>多職種協働の実践</u>や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 配属された施設・事業所で、職員の助言や指導、実習を通して、施設の役割や機能を理解する。また、利用者とのコミュニケーションや観察から状態像を理解すると同時に、介護職員や他職種の役割や業務内容を見学及び実践する。実践の際は、学校で学んだ基礎的な知識や技術を活かしつつ、利用者の状況に応じた支援の実践を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態像を理解することができる。 ・利用者の生活の不自由さを理解することができる。 ・安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 ・対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのコミュニケーションを図り情報収集を行う。また、コミュニケーションだけではなく、観察や多職種への質問、記録類も活用し、利用者の全体像を把握する。 ・介護職員がそれぞれの利用者にとどのような生活支援を行っているか見学し、その根拠を理解し、実践を行う。 ・リスクマネジメントの視点をもち実習に臨む。 ・常に自分自身の言動について振り返り、自己覚知・自己理解を深める。 ・自分が疑問をもった事柄に対して、自己にて調べ職員に助言・指導を求め疑問を解決する。 ・実習施設の特徴や機能、職員の一般的な役割を理解することができる。 ・安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 ・介護実習に臨む体調管理を行える。 ・実習記録が書ける。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術:中央法規 7 生活支援技術Ⅱ:中央法規 10 介護総合演習・介護実習:中央法規 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 介護実習施設評価・学校側評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護実習Ⅰ－④	開講時期	1年 後 期
授業形態	実習	実習期間	令和6年2月1日～2月2日 2日間
担当者名 実務経験(有・無)	上野一路・矢口健一 柳瀬志穂・妹脊康子・和田恵理	実習時間	16時間(1日8時間) 0.5単位
<p>【授業の目的・ねらい】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において、<u>地域における生活支援の実践</u>、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、<u>多職種協働の実践</u>や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 居宅サービス（訪問介護事業所や通所介護事業所）での実習を行い、利用者が住み慣れた地域で、どのようなサービスを活用しながら生活しているのかを知る。</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者を取り巻く家族や近隣との関係に注目できる。 ・利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が住んでいる地域のサービスを知る。 ・学校で学んだ各サービスの特徴や機能についての基本的知識、実習体験を通して、利用者やその家族にとって、地域でサポートを受けることができる重要性を理解する。 ・リスクマネジメントの視点もち実習に臨む。 ・常に自分自身の言動について振り返り、自己覚知・自己理解を深める。 ・自分が疑問をもった事柄に対して、自己にて調べ職員に助言・指導を求め疑問を解決する。 ・サービスの特徴や機能、職員の一般的な役割を理解することができる。 ・介護実習に臨む体調管理を行える。 ・実習記録が書ける。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術：中央法規 7 生活支援技術Ⅱ：中央法規 10 介護総合演習・介護実習：中央法規 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 介護実習施設評価・学校側評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護実習Ⅱ－①	開講時期	1 年 後 期
授業形態	実習	実習期間	令和6年2月26日～3月18日 15日間
担当者名 実務経験(有・無)	上野一路・矢口健一 柳瀬志穂・妹脊康子・和田恵理	実習時間	120時間(1日8時間) 4単位
<p>【授業の目的・ねらい】 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、他科目で学習した知識や技術を総合して利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画を作成し、<u>介護過程の実践的展開</u>を行う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・ICF の考え方をもとに情報を収集し、今後の危険性や可能性について考え、解決すべき課題を明確にする。さらに、課題解決に向けた計画を立案する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・観察、コミュニケーション、記録類を通じて介護に必要な情報が収集できる。 ・一つひとつの情報のもつ意味を解釈し、情報同士の関連づけができる ・利用者にとっての優先度を考え、生活課題が明確にできる ・利用者や他職種とともに介護計画(介護目標、具体的な援助内容・方法)が立案できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 ・アセスメント表を活用し、情報収集、情報の解釈・関連付け・統合化、課題の明確化を行う。 ・計画立案時は、その計画が利用者本人にとって、自立・快適・安全を満たしているかを考える。 ・設定する目標は、主語が利用者自身となっているか、評価しやすく設定されているかを考える。 ・具体的な支援方法については、立案者のみが理解できる表現は避け、利用者や家族、他職種も理解できるよう詳細に記載することに注意する。 ・実施する時間や曜日を明確に記載し、誰がいつ行うのか設定する。 ・実習中に定期的にカンファレンスを行い、実習の課題達成状況や自己評価、指導者からの講評を受ける。 ・学生自身が介護の仕事に希望と可能性を見出し、介護専門職として自らを見直すことができる。 ・利用者との関係形成が密になり感情移入することを修正し、客観的なかわりができるようにする。 ・事例を整理することにつなげ、達成感をもてるようにする。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程:中央法規 10 介護総合演習・介護実習:中央法規 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 介護実習施設評価・学校側評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名	介護実習Ⅱ－②	開講時期	2年 前期
授業形態	実習	実習期間	令和5年6月5日～7月6日 23日間
担当者名 実務経験(有・ 無)	上野一路・矢口健一 柳瀬志穂・妹脊康子・和田恵理	実習時間	184時間(1日8時間) 6単位

【授業の目的・ねらい】

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、他科目で学習した知識や技術を総合して利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画を作成し、介護過程の実践的展開を行う。

【授業全体の内容の概要】

ICFの考え方をもとにアセスメントし、課題解決に向けた計画を立案する。さらに、立案した計画書について実施し、評価までの一連のプロセスを展開する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

- ・観察、コミュニケーション、記録類を通じて介護に必要な情報が収集できる。
- ・一つひとつの情報のもつ意味を解釈し、情報同士の関連づけができる。
- ・利用者にとっての優先度を考え、生活課題が明確にできる。
- ・利用者や他職種とともに介護計画(介護目標、具体的な援助内容・方法)が立案できる。
- ・利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる。
- ・介護目標が達成できたかの評価ができる。
- ・具体的な援助内容が適切であったかの評価ができる。
- ・計画を修正する必要があるかの判断ができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

- ・アセスメント表を活用し、情報収集、情報の解釈・関連付け・統合化、課題の明確化を行う。
- ・計画立案時は、その計画が利用者本人にとって、自立・快適・安全を満たしているかを考える。
- ・設定する目標は、主語が利用者自身となっているか、評価しやすく設定されているかを考える。
- ・具体的な支援方法については、立案者のみが理解できる表現は避け、利用者や家族、他職種も理解できるよう詳細に記載することに注意する。
- ・実施する時間や曜日を明確に記載し、誰がいつ行うのか設定する。
- ・実習中に定期的にカンファレンスを行い、実習の課題達成状況や自己評価、指導者からの講評を受ける。
- ・学生自身が介護の仕事に希望と可能性を見出し、介護専門職として自らを見直すことができる。
- ・利用者との関係形成が密になり感情移入することを修正し、客観的なかわりができるようにする。
- ・事例を整理することにつなげ、達成感がもてるようにする。

【使用テキスト・参考文献】

最新 介護福祉士養成講座
9 介護過程:中央法規
10 介護総合演習・介護実習:中央法規
実習の手引き

【単位認定の方法及び基準】

介護実習施設評価・学校側評価

授 業 概 要

授業科目名	発達と老化の理解 I	開講時期	1 年 後 期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	宮本 ゆう子 ・ 小林 直竹 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 生涯に及ぶ成長・発達を生涯発達心理としてとらえ、発達段階における生理・心理的特徴を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 老年期の発達課題を様々な視点からとらえる。 老化に伴う身体的変化、心理的变化に対する対応方法が理解できる。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 発達段階における発達課題を高齢者の心理や行動とともに理解、対応ができる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p><u>人間の成長と発達の基礎的知識</u> 1. 成長・発達の考え方、原則・法則 2. 成長・発達に影響する要因</p> <p><u>老年期の特徴と発達課題</u> 3・4. 老年期の定義、老化とは 5・6. 老年期の発達課題</p> <p><u>老化にともなうところとからだの変化と生活</u> 7・8. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 9・10. 老化にともなう心理的な変化と生活への影響 11・12. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響</p> <p><u>高齢者と健康</u> 13・14. 健康長寿に向けての健康 15. まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 : 中央法規出版 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ : 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験・授業態度(出席状況も含む)</p>	

授 業 概 要

授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ	開講時期	2年 前期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	宮本 ゆう子 ・ 小林 直竹 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15回
<p>【授業の目的・ねらい】 老化に伴う身体的変化について知識を深め、対処方法を理解する。 高齢者に多い症状・疾患について対処方法を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 老化に伴う身体的機能の変化の特徴に関する基礎的知識に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 高齢者の身体的変化・疾患について理解し、専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。 保健医療職との連携の必要性が理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p style="text-align: center;"><u>高齢者と健康</u></p> <p>1・2.高齢者に多い疾患・症状の特徴 3.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格系・筋系) 4.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳・神経系) 5.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(皮膚・感覚器系) 6・7.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(消化器系) 8.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(胃・泌尿器系) 9.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(内分泌・代謝系) 10.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(歯・口腔疾患)(悪性新生物) 11.高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(感染症)(その他) 12.保健医療との連携 13・14.<u>人間の発達段階と発達課題</u> 15.まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解:中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験・授業態度(出席状況も含む)</p>	

授 業 概 要

授業科目名	認知症の理解	開講時期	1 年 通 年		
授業形態	講 義	時間数(単位)	60 時間 2 単位		
担当者名 実務経験(有・無)	玉置 哲也・尾本 洋史 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	30 回		
<p>【授業の目的・ねらい】 認知症に関する基本的な知識、介護実践を学ぶと共に認知症介護についての新しい流れとされるパーソン・センタード・ケア,その人らしさを大切にする介護に基づく理論と実践方法を学び、地域に根ざした介護、チームケアはどういうことかを学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 認知症を引き起こす原因疾患、症状についてしっかり理解するとともに、アプローチ方法を学ぶ、グループワークやロールプレイ等を取り入れることにより、学びを深められるようにする。その人らしさを大切にする介護とはどのようなことかを、グループワーク等の演習を通じて考え、感じさせる。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 認知症の定義、特徴及び原因疾患、症状等の基本的な知識が習得できると共に、認知症の人を特別な扱い(偏見)でみることなく、その人らしさ(尊厳)とは何かを意識できるようになる。</p>					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <p><u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u></p> <p>1・2 認知症とは何か(定義と診断)</p> <p>3 脳のしくみ</p> <p>4 認知症の人の心理</p> <p>5 中核症状の理解</p> <p>6 生活障害の理解</p> <p>7 BPSDの理解</p> <p>8 認知症の診断</p> <p>9 認知症の原因疾患と症状・生活障害</p> <p>10 認知症治療薬</p> <p>11 認知症予防</p> <p><u>認知症を取り巻く状況</u></p> <p>12 認知症を取り巻く状況 これまで-今-これから</p> <p>13 認知症ケアの理念と視点</p> <p>14 認知症当事者の視点から見えるもの</p> <p>15 まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <p><u>認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u></p> <p>16・17 パーソン・センタード・ケア</p> <p>18 認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール</p> <p>19 認知症の人とのコミュニケーション</p> <p>20・21 認知症の人へのケア</p> <p>22・23 認知症の人へのさまざまなアプローチ</p> <p>24 認知症の人の終末期医療とケア</p> <p>25 環境づくり</p> <p>介護者支援</p> <p>26 <u>家族への支援</u></p> <p>27 ケアラーへの支援</p> <p>認知症の人の地域生活支援</p> <p>28 制度、サービス、機関、地域づくり</p> <p>認知症の人の地域生活支援</p> <p>29 <u>多職種連携と協働</u></p> <p>30 まとめ</p> </td> </tr> </table>				<p><u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u></p> <p>1・2 認知症とは何か(定義と診断)</p> <p>3 脳のしくみ</p> <p>4 認知症の人の心理</p> <p>5 中核症状の理解</p> <p>6 生活障害の理解</p> <p>7 BPSDの理解</p> <p>8 認知症の診断</p> <p>9 認知症の原因疾患と症状・生活障害</p> <p>10 認知症治療薬</p> <p>11 認知症予防</p> <p><u>認知症を取り巻く状況</u></p> <p>12 認知症を取り巻く状況 これまで-今-これから</p> <p>13 認知症ケアの理念と視点</p> <p>14 認知症当事者の視点から見えるもの</p> <p>15 まとめ</p>	<p><u>認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u></p> <p>16・17 パーソン・センタード・ケア</p> <p>18 認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール</p> <p>19 認知症の人とのコミュニケーション</p> <p>20・21 認知症の人へのケア</p> <p>22・23 認知症の人へのさまざまなアプローチ</p> <p>24 認知症の人の終末期医療とケア</p> <p>25 環境づくり</p> <p>介護者支援</p> <p>26 <u>家族への支援</u></p> <p>27 ケアラーへの支援</p> <p>認知症の人の地域生活支援</p> <p>28 制度、サービス、機関、地域づくり</p> <p>認知症の人の地域生活支援</p> <p>29 <u>多職種連携と協働</u></p> <p>30 まとめ</p>
<p><u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u></p> <p>1・2 認知症とは何か(定義と診断)</p> <p>3 脳のしくみ</p> <p>4 認知症の人の心理</p> <p>5 中核症状の理解</p> <p>6 生活障害の理解</p> <p>7 BPSDの理解</p> <p>8 認知症の診断</p> <p>9 認知症の原因疾患と症状・生活障害</p> <p>10 認知症治療薬</p> <p>11 認知症予防</p> <p><u>認知症を取り巻く状況</u></p> <p>12 認知症を取り巻く状況 これまで-今-これから</p> <p>13 認知症ケアの理念と視点</p> <p>14 認知症当事者の視点から見えるもの</p> <p>15 まとめ</p>	<p><u>認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u></p> <p>16・17 パーソン・センタード・ケア</p> <p>18 認知症の人の理解と認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール</p> <p>19 認知症の人とのコミュニケーション</p> <p>20・21 認知症の人へのケア</p> <p>22・23 認知症の人へのさまざまなアプローチ</p> <p>24 認知症の人の終末期医療とケア</p> <p>25 環境づくり</p> <p>介護者支援</p> <p>26 <u>家族への支援</u></p> <p>27 ケアラーへの支援</p> <p>認知症の人の地域生活支援</p> <p>28 制度、サービス、機関、地域づくり</p> <p>認知症の人の地域生活支援</p> <p>29 <u>多職種連携と協働</u></p> <p>30 まとめ</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解:中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 出席状況・提出物・定期試験・小テスト・授業態度など</p>			

授 業 概 要

授業科目名	障害の理解Ⅱ	開講時期	2年 前期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	宮本 ゆう子 ・ 平田 浩三 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の専門職として、障害の理解と障害のある人の心理と対応を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障害についての社会的制度やそれぞれの障害・疾病についての理解を深めるとともに、他職種との連携について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学、疾病の基礎知識が理解でき、各疾患へのアセスメントができるようになる。 ・他職種との連携について理解し、障害のある人や家族への支援方法が確立できる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p><u>障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ</u></p> <p>1・2.知的障害 3・4.精神障害 5・6.高次脳機能障害 7.8.発達障害 9. 難病 10・11.内部障害(心臓機能障害)(呼吸器機能障害)(肝臓機能障害) 12. 内部障害(腎臓機能障害)(膀胱・直腸機能障害) 13. 内部障害(小腸機能障害)(ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害) 14. <u>連携と協働</u> 15. まとめ</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解:中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験・授業態度(出席状況も含む)</p>	

授 業 概 要

授業科目名	こころとからだのしくみⅡ	開講時期	2 年 前 期
授業形態	講 義	時間数(単位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	宮本 ゆう子 ・ 平田 浩三 (広川キャンパス)(橋本キャンパス)	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 こころとからだのしくみの基礎知識を踏まえ、生活を支える介護実践との関係についての理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士としての人体の観察、気づき、予防ができるように理解を深めることを目標とする。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p><u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 2. 変化の気づきと対応 <p><u>身じたくに関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 4. 変化の気づきと対応 <p><u>食事に関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 6. 変化の気づきと対応 <p><u>入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 8. 変化の気づきと対応 <p><u>排泄に関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 10. 変化の気づきと対応 <p><u>休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 12. 変化に気づくためのポイント <p><u>人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 「死」のとらえ方、「死」に対するこころの理解 14. 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 15. まとめ 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ:中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2023:中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験・授業態度(出席状況も含む)</p>	

授 業 概 要

授業科目名	こころとからだのしくみⅢ	開講時期	2 年 後 期
授業形態	講 義	時間数(単 位)	30 時間 1 単位
担当者名 実務経験(有・無)	中世古 博幸	授業の回数	15 回
<p>【授業の目的・ねらい】 介護現場における薬の事故防止に伴い、介護福祉士の医薬品に対する基礎知識を習得し、現場での事故防止の一助とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護現場で起こった実際の事故事例をもとに、医薬品の基礎知識を理解する。さらに高齢者が服用する主な医薬品を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 現場で高齢者が服用する医薬品の名称・効果・注意点を理解する。また高齢者の服薬コンプライアンス向上へサポートでき、事故を未然に防ぐ介護福祉士になる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の基礎知識① 2. 医薬品の基礎知識② 3. 医薬品の基礎知識③ 4. 利用者の服薬コンプライアンスの向上について① 5. 利用者の服薬コンプライアンスの向上について② 6. 介護現場における薬の事故事例について① 7. 介護現場における薬の事故事例について② 8. 事故予防方法① 9. 事故予防方法② 10. 高齢者の服用する薬と副作用① 11. 高齢者の服用する薬と副作用② 12. 高齢者の服用する薬と副作用③ 13. <u>こころのしくみの理解</u>とそれに関連した薬 14. <u>からだのしくみとの理解</u>とそれに関連した薬 15. まとめ 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護の現場から薬を考える」: 中世古博幸著 日総研出版 最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ: 中央法規出版 ・介護のための薬剤事典: 水八寿裕 ナツメ社 		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>出席状況・定期試験・授業態度など</p>	

授 業 概 要

授業科目名	医療的ケア概論	開講時期	1 年 通 年		
授業形態	講 義	時間数(単 位)	60 時間 2 単位		
担当者名 実務経験(有・無)	宮本 ゆう子 ・ 小林 直竹 (広川キャンパス) (橋本キャンパス)	授業の回数	30 回		
<p>【授業の目的・ねらい】 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生の基礎知識と実施手順を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 医療従事者と連携しながら、医療的ケアを必要に応じて安全に実施することが出来る。</p>					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 <u>医療的ケア実施の基礎</u> 2 医療的ケアとは 3・4 医行為について 5・6 喀痰吸引等制度 7・8 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 9 その他の制度 10 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 11・12 救急蘇生 13・14 感染予防 15 まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16・17 介護職の感染予防 18 療養環境の清潔 19 消毒法 20 消毒と滅菌 21 身体・精神の健康 22 健康状態を知る項目 23 急変状態について <u>喀痰吸引(基礎的知識)</u> 24・25・26 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 <u>経管栄養(基礎的知識)</u> 27・28・29 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 30 まとめ </td> </tr> </table>				1 <u>医療的ケア実施の基礎</u> 2 医療的ケアとは 3・4 医行為について 5・6 喀痰吸引等制度 7・8 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 9 その他の制度 10 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 11・12 救急蘇生 13・14 感染予防 15 まとめ	16・17 介護職の感染予防 18 療養環境の清潔 19 消毒法 20 消毒と滅菌 21 身体・精神の健康 22 健康状態を知る項目 23 急変状態について <u>喀痰吸引(基礎的知識)</u> 24・25・26 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 <u>経管栄養(基礎的知識)</u> 27・28・29 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 30 まとめ
1 <u>医療的ケア実施の基礎</u> 2 医療的ケアとは 3・4 医行為について 5・6 喀痰吸引等制度 7・8 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 9 その他の制度 10 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 11・12 救急蘇生 13・14 感染予防 15 まとめ	16・17 介護職の感染予防 18 療養環境の清潔 19 消毒法 20 消毒と滅菌 21 身体・精神の健康 22 健康状態を知る項目 23 急変状態について <u>喀痰吸引(基礎的知識)</u> 24・25・26 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 <u>経管栄養(基礎的知識)</u> 27・28・29 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 30 まとめ				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア:中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ :中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験・授業態度(出席状況も含む)</p>			

授 業 概 要

授業科目名	医療的ケア演習	開講時期	2年 通年		
授業形態	演習	時間数(単位)	60時間 2単位		
担当者名 実務経験(有・無)	宮本 ゆう子 ・ 小林 直竹 (広川キャンパス) (橋本キャンパス)	授業の回数	30回		
<p>【授業の目的・ねらい】 シミュレーターを用いて、医療的ケアを適切に実施するために必要な知識を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療的ケア概論を踏まえて、手順に従いシミュレーターを用いて実施する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 シミュレーターを用いて、安全、効果的に喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法を一人で実施できる。</p>					
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1・2・3. <u>喀痰吸引(実施手順)</u></p> <p>4・5. <u>経管栄養(実施手順)</u> 演習</p> <p>6. 口腔内喀痰吸引①②</p> <p>7. 口腔内喀痰吸引③④</p> <p>8. 口腔内喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>9. 鼻腔内喀痰吸引①②</p> <p>10. 鼻腔内喀痰吸引③④</p> <p>11. 鼻腔内喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>12. 気管カニューレ内部の喀痰吸引①②</p> <p>13. 気管カニューレ内部の喀痰吸引③④</p> <p>14. 気管カニューレ内部の喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>15. まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border: none;"> <p>16. 胃ろう経管栄養①</p> <p>17. 胃ろう経管栄養②</p> <p>18. 胃ろう経管栄養③</p> <p>19. 胃ろう経管栄養④</p> <p>20. 胃ろう経管栄養⑤</p> <p>21. 胃ろう経管栄養⑥</p> <p>22. 胃ろう経管栄養⑦</p> <p>23. 実技試験</p> <p>24. 経鼻経管栄養①</p> <p>25. 経鼻経管栄養②</p> <p>26. 経鼻経管栄養③</p> <p>27. 経鼻経管栄養④</p> <p>28. 経鼻経管栄養⑤</p> <p>29. 経鼻経管栄養⑥</p> <p>30. 実技試験</p> </td> </tr> </table>				<p>1・2・3. <u>喀痰吸引(実施手順)</u></p> <p>4・5. <u>経管栄養(実施手順)</u> 演習</p> <p>6. 口腔内喀痰吸引①②</p> <p>7. 口腔内喀痰吸引③④</p> <p>8. 口腔内喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>9. 鼻腔内喀痰吸引①②</p> <p>10. 鼻腔内喀痰吸引③④</p> <p>11. 鼻腔内喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>12. 気管カニューレ内部の喀痰吸引①②</p> <p>13. 気管カニューレ内部の喀痰吸引③④</p> <p>14. 気管カニューレ内部の喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>15. まとめ</p>	<p>16. 胃ろう経管栄養①</p> <p>17. 胃ろう経管栄養②</p> <p>18. 胃ろう経管栄養③</p> <p>19. 胃ろう経管栄養④</p> <p>20. 胃ろう経管栄養⑤</p> <p>21. 胃ろう経管栄養⑥</p> <p>22. 胃ろう経管栄養⑦</p> <p>23. 実技試験</p> <p>24. 経鼻経管栄養①</p> <p>25. 経鼻経管栄養②</p> <p>26. 経鼻経管栄養③</p> <p>27. 経鼻経管栄養④</p> <p>28. 経鼻経管栄養⑤</p> <p>29. 経鼻経管栄養⑥</p> <p>30. 実技試験</p>
<p>1・2・3. <u>喀痰吸引(実施手順)</u></p> <p>4・5. <u>経管栄養(実施手順)</u> 演習</p> <p>6. 口腔内喀痰吸引①②</p> <p>7. 口腔内喀痰吸引③④</p> <p>8. 口腔内喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>9. 鼻腔内喀痰吸引①②</p> <p>10. 鼻腔内喀痰吸引③④</p> <p>11. 鼻腔内喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>12. 気管カニューレ内部の喀痰吸引①②</p> <p>13. 気管カニューレ内部の喀痰吸引③④</p> <p>14. 気管カニューレ内部の喀痰吸引⑤実技試験</p> <p>15. まとめ</p>	<p>16. 胃ろう経管栄養①</p> <p>17. 胃ろう経管栄養②</p> <p>18. 胃ろう経管栄養③</p> <p>19. 胃ろう経管栄養④</p> <p>20. 胃ろう経管栄養⑤</p> <p>21. 胃ろう経管栄養⑥</p> <p>22. 胃ろう経管栄養⑦</p> <p>23. 実技試験</p> <p>24. 経鼻経管栄養①</p> <p>25. 経鼻経管栄養②</p> <p>26. 経鼻経管栄養③</p> <p>27. 経鼻経管栄養④</p> <p>28. 経鼻経管栄養⑤</p> <p>29. 経鼻経管栄養⑥</p> <p>30. 実技試験</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア:中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 筆記試験・授業態度(出席状況も含む) 実技試験</p>			